

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 26 年 月 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	田中 美帆

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
東京都御蔵島村
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
ミナミハンドウイルカ体表面の傷の調査
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 26 年 6 月 10 日 ~ 平成 26 年 6 月 22 日 (12 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
御蔵島観光協会 小木万布
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
今回の御蔵島での調査では、東京都御蔵島村の周辺海域に生息するミナミハンドウイルカの個体識別およびイルカ体表面の傷の観察を行った。御蔵島では東京都のエコツーリズム事業の一環として、イルカの個体識別を行っている。今回の調査は、御蔵島のイルカ個体識別調査のメンバーとともにいった。調査はシーズン初めということもあり、前年度観察された個体と照合しながら、冬季期間中(調査不可期間)に増加した傷を個体識別シートに新しく記入することを目的とした。調査は、本種を対象にしている商業のウォッチング船に便乗させていただき、水中ビデオにてイルカ体表面の傷の撮影を行った。私が参加した調査期間 6 月 10 日~6 月 22 日の間で、合計 15 回出航し、傷の観察と映像データを得ることができた。
 [調査結果] 調査期間：6 月 10 日~6 月 22 日 出航数：15 回 撮影時間：401 分 確認個体(10 出航分の解析終了時)：105 頭 新しい傷：ダルマザメ傷 8 個 白傷 解析中
 調査期間 12 日間で、出航できた回数は 15 回、撮影できた分数は 401 分であった。前年度観察された個体と照合できた個体は、95 頭で、さらに今年度に生まれた個体が 10 頭、合計で 105 頭いることを確認した。そのうち、8 頭にまだ治癒していないダルマザメ食痕が残っていることを確認した。また、ほとんどの個体に白傷があることを観察することができた。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

[今後の予定]

7月の調査(7月8日~7月25日)では、6月同様に傷を水中ビデオを用いて撮影することの他に、3Dカメラを使用して傷の大きさを測定する。今後も調査を続け、確認個体の頭数を増やすとともに、前年度の個体識別シートと比較することで、どのくらいダルマザメ食痕が増加しているかを調べる予定である。また浅い傷である白傷については治癒が早いので、短い期間で傷の観察を行う必要がある。今後も水中ビデオのデータを用いて、詳しく個体ごとの白傷の状態や部位別の被度について解析を行う。



写真1：当歳児を連れるメスイルカ JJ(#507FA) 写真2：三本根調査でのイルカ
(御蔵イルカ調査チーム facebook より)

6. その他 (特記事項など)

快くウォッチング船に同乗させてくださった船頭およびガイドの皆様に深く感謝いたします。また御蔵島で調査を行ううえで、相談や指導をいただいた観光協会の小木万布様にも深く感謝いたします。この研究は、PWSの助成を受けて行われました。深くお礼申し上げます。